

平成30年度指導の目標と重点について

指導の目標

学校には、子どもの「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」のバランスのとれた「生きる力」を育むことが求められています。

本市では、平成22年度に「横須賀市教育振興基本計画」を策定し、育てたい「横須賀の子ども像」として新たに【人間性豊かな子ども】を掲げ、学校・家庭・地域で連携して子どもを育むことを目指しています。

ここでは、横須賀市教育振興基本計画第3期実施計画(平成30年度からの4カ年計画)「学校教育編」の5つの目標を基に、児童生徒を指導する上で学校が取り組むべき目標とその内容を「指導の目標」として示しています。

各学校では、この「指導の目標」を基に教育課程を編成し、その実践を通して、【人間性豊かな子ども】を育ててください。

1 子どもの学びを豊かにします

「子どもの学びを豊かにする」とは、子どもが学びの過程において、学び方を身に付け、自分の良さや成長を自覚し、学ぶことの大切さを実感できる学び、また、仲間と共に学ぶことの意義を見出し、自分と向き合う中で新たな目標を持つことができる学びを実現することと捉えます。

子どもの学びを豊かにすることで、自己肯定感を高め、予測困難な時代を生き抜く力、夢や目標に向かって未来を切り開いていく力を育成することを目指します。

(1) 学校教育目標の実現に向けて、創意工夫ある教育課程を編成します

社会に開かれた教育課程の理念のもと、学校や地域の実態を把握し、子どもの発達の段階や特性を考慮して、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」をバランスよく育む創意工夫ある教育課程を編成します。また、学校評価等を生かし、教育課程の改善につながるマネジメント・サイクルを確立します。

(2) 確かな学力を育成するため、質の高い授業づくりを行います

学習指導要領の内容について理解を深め、目標と指導と評価が一体となった授業づくりを行い、子どもが学校教育で身に付けるべきよりよく生きるための基盤となる内容を確実に定着させます。また、主体的・対話的で深い学びを追求することによって、質の高い授業づくりを推進します。

(3) 学校教育の土台となる認め合い高め合う関係を築く力を育成します

学力・体力・生活意識調査の専門的分析によって、認め合い高め合う関係を築く力が、学力・体力にも影響のあることがわかりました。適切に自己表現する力や相手の立場に立って考える力を育てるとともに、規範意識をはじめ自律性や自主性、集団の一員として協力する態度を育てることで、子ども同士が互いに認め合い高め

合う関係を築くことができるようにします。

(4) インクルーシブ教育システムの構築を推進します

共生社会の実現に向けて、一人一人の子ども理解、子ども同士の相互理解を深める取り組みを行います。また、授業のユニバーサルデザイン化や施設・設備の整備など、「基礎的環境整備」を進めるとともに、個々の教育的ニーズに応じた指導や支援をするなどの「合理的配慮」の提供を図ります。

(5) 校種間連携を推進します

教育方針を中学校ブロックで共通に設定し教育実践を行う、小中一貫教育を推進します。あわせて、幼保小連携や高校への接続を意識した教育活動を行うことによって、学びの系統性・連続性を重視した教育の充実を図ります。

2 子どもの健やかな体を育成します

「子どもの健やかな体を育成する」とは、生涯にわたってたくましく生きるために必要な健康を保持増進することや、体力を育成することと捉えます。

体力は人間の活動の源であり、健康の維持といった身体面のほか、意欲や気力といった精神面の充実にも大きく関わっています。子どもの発達の段階に応じて、健康の保持増進と体力の向上を図るとともに、学校における食育を充実させることを目指します。

(1) 健康・体力向上の取組を推進します

子どもの体力や運動能力、運動習慣等に関する実態を把握し、その結果を活用して、子ども一人一人の健康の保持増進と体力の向上を図ります。

(2) 学校の教育活動全体を通じて行われる「体育・健康に関する指導」を推進します

体育・保健体育科の授業改善や、体育的行事の充実など、体力の向上に関する指導が、学校の教育活動全体を通じて組織的・計画的に行われるよう推進します。

また、多様化・深刻化する子どもの健康課題に対応するため、子どもたちが適切な意思決定や行動選択を行い、積極的に健康な生活を実践することができるよう、体育・保健体育科などの教科学習を中核として学校の教育活動全体を通じた体系的な指導の充実を図ります。

(3) 学校における食育の充実を図ります

子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるよう、栄養教諭を中核とした学校、家庭、地域の連携・協働による食育の充実を図ります。

また、中学校完全給食の実施に向けて、小・中学校9年間を見通した食に関する指導の充実を図ります。

(4) 望ましい生活習慣の確立に向けた支援を充実させます

子どもたちの生活リズムの向上を図るため、学校における継続的な指導とともに、子どもの基本的な生活習慣の確立や生活リズムの向上につながる活動を推進し、健康・体力づくりへの意識を高め、望ましい生活習慣、運動習慣の確立を図ります。

(5) 運動やスポーツに親しむ機会の充実を図ります

生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する資質・能力や豊かな人間性・社会性を育成するために、学校における体育活動を通じて、運動やスポーツに親しむ機会の充実を図ります。

3 学校の組織力や教職員の力を高めます

学校教育目標の実現に向けて、学校がチームとして組織力を発揮し、よりよい教育活動を展開するには、校長のマネジメント・リーダーシップとともに、教職員一人一人の力が不可欠です。そのためには、日常的に教職員が関わり合い協働すること、互いに学び合う姿勢を大切にしながら人材育成の取組を充実させることが重要です。その中でも、特に教員の授業における指導力の向上が求められています。

また、多様化する教育課題に適切に対応するため、組織的に取り組み、学校の教育力を向上させることを目指します。

(1) 組織を有効に機能させ、人材を育成します

組織の一員として自分の役割を果たすことに努め、より良い教育活動の展開を図るため、グループ制や学年会、教科会等の組織を有効に機能させ、校内の人材育成が促進する体制を整えます。

(2) 校内研究・研修の充実を図ります

協働して校内研究を深め、同僚性を高めながら研究成果を日常の教育活動の改善に3つなげます。また、教職員一人一人が経験年数や職務に応じた自己課題を把握し、研修機会を活用して資質・能力の向上を推進します。

(3) 学校事故や様々な学校問題へ組織的かつ適切に対応します

学校事故や、いじめ等の様々な学校問題に対し、校内体制を整え、その未然防止に努めるとともに、事案が起きた時には、速やかにかつ適切に対応します。

4 学校・家庭・地域の連携を深めます

子どもが、基本的な生活習慣、運動習慣、学習や読書の習慣を身に付けるため、また、子どもが地域への理解を深め、地域を愛する気持ちをもつためには、家庭や地域との連携が必要です。

学校は家庭や地域に積極的に働きかけ、連携を深めることを目指します。

(1) 家庭・地域との信頼関係や協力体制を構築します

教育活動に対する家庭や地域の意見を的確に把握するとともに、学校評価の結果など、学校の教育活動に関する情報を家庭や地域と共有することを通して、学校と家庭、地域との信頼関係や協力体制を構築します。

(2) 地域の教育資源や学習環境を一層活用します

子どもが実感を伴って学び、生活に生かす力を身に付けることができるよう、地域の人材や素材、専門的機能をもつ諸機関を効果的に活用し、教育活動の充実を図ります。

5 教育環境を整備し、充実させます

学校の教育環境は、子どもの「生きる力」の育成に、大きく影響する要素です。

子どもが心豊かに、安全で安心な学校生活を送ることができるよう、また、教育の質が向上するよう、教育環境を整備し、充実させることを目指します。

(1) 安全・安心な環境づくりに努めます

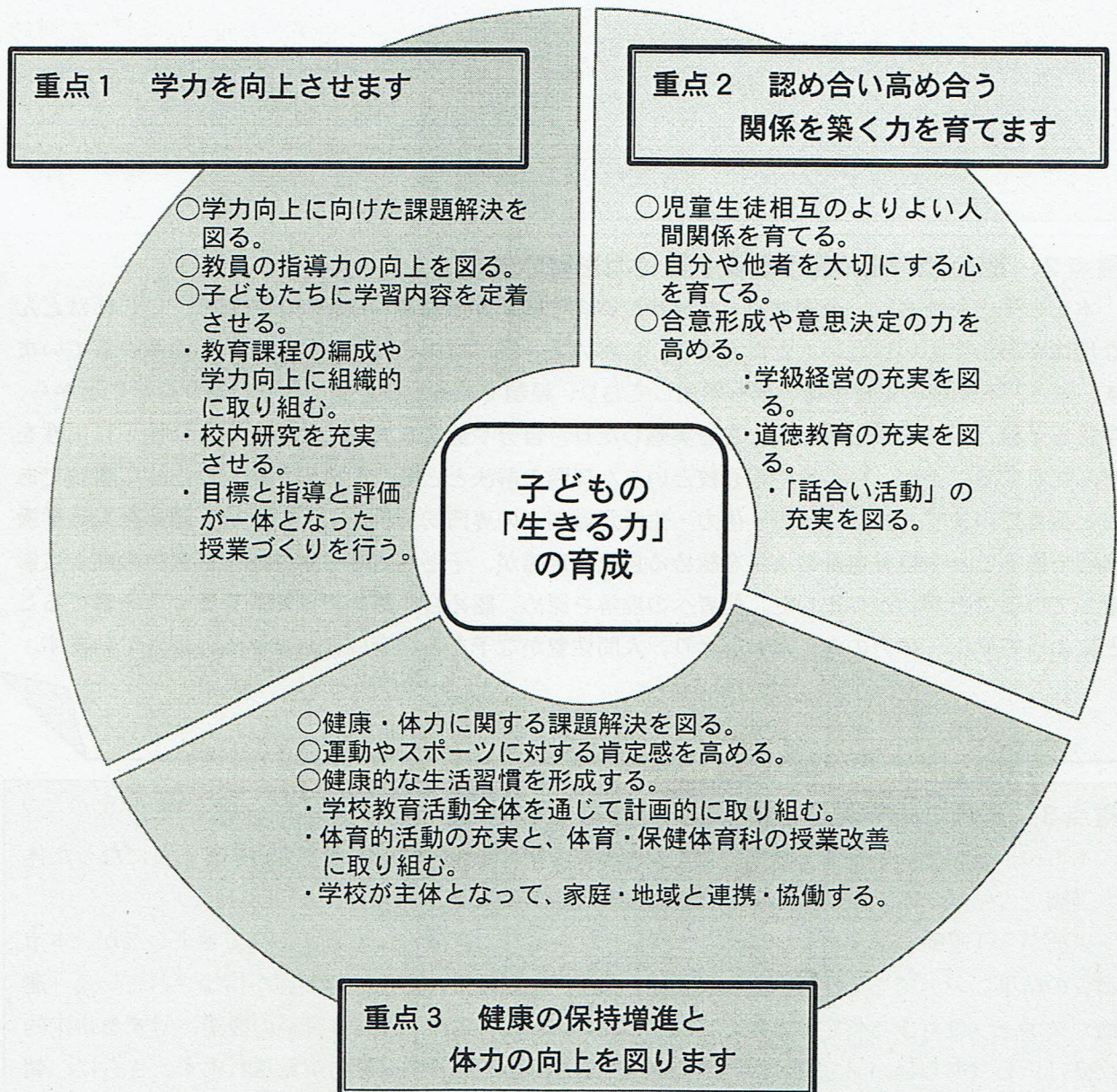
危機管理意識を高め、家庭や地域、関係諸機関の協力を得ながら、安全・安心に配慮した教育環境を整備します。特に、防災計画や防災訓練など、防災管理・組織的活動の充実を図ります。

(2) 効果的な学習環境づくりに努めます

教育の質が向上するよう、教室や学校図書館等の特別教室の環境を整えるとともに、ICTなど教材・教具の工夫とその効果的な活用を推進します。

指導の重点

横須賀市教育委員会では、平成30年度の「指導の目標」のもと、これまでの様々な分析、検証をふまえ、課題に即し、学校と教育委員会が重点的に取り組むべきことを「指導の重点」として次のように設定しました。



3つの重点の達成に向けて、共通して大切にしたいのが、より質の高い授業づくりであると考えています。各学校では、指導の重点に対して、具体的な取組内容を設定し、取り組んでください。

指導の重点設定の背景

重点1 学力を向上させます

本市の子どもたちの学力の面では、全国学力・学習状況調査や横須賀市学習状況調査等の結果から、同じ母集団では、学年が進むにしたがって全国平均に近づくなど、学習状況について改善してきています。一方で、小学校3年生の時点で全国平均との差が大きく、低学年における学習の定着に課題があることや、学力の分布において学習に課題のある子どもたちの割合が多い等、未だ課題が見られる状況です。これまでの学力向上の取組に関する分析や、学力向上推進委員会での検証から、子どもたちに学習内容を確実に定着させていくこととともに、学校が学力向上に対して組織的に取り組むこと、教員一人一人の授業における指導力を向上させることが、課題の解決に向けて重要であると捉えています。

重点2 認め合い高め合う関係を築く力を育てます

本市の子どもたちは、全国学力・学習状況調査や横須賀市学習状況調査の質問紙「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」において「当てはまる」と回答した割合が減少しています。また、不登校の児童生徒の数も増加しており、課題であると捉えています。こうしたことから、学級を基盤として、人と関わるよさを実感したり、自分や他者を大切にすることや自律性・自主性を育んだりすることが、いじめや不登校といった課題の解決とともにその未然防止にとって重要であると捉えています。また、学力・体力・生活意識調査の専門的分析から、お互いを認め合える学級集団であることや自分自身のよさを認める自己肯定感が、子どもたちの学力および体力の向上に影響していることがわかりました。他者への理解を深め、認め合い高め合う関係を築く力を育てることによって学力・体力の向上はもとより、人間性豊かな子どもの育成につながると捉えています。

重点3 健康の保持増進と体力の向上を図ります

本市の子どもたちの健康・体力の面では、平成27年度から本市独自で実施するようになった体力等調査の結果から、その課題が明らかになってきました。

以前から「運動する子としない子の二極化」が全国的な課題として指摘されてきましたが、本市調査の結果においてもその傾向が顕著です。また、実技調査の結果との関連が指摘されている「運動やスポーツに対する肯定的な捉え（好き・大切）」や、「体育・保健体育科の授業に対する肯定的な受け止め（楽しい）」について、学年が上がるにつれて低下する傾向が見られます。さらに、朝食の喫食率や1日の睡眠時間など、基本的な生活習慣についても課題があると言えます。

体育的活動の充実や体育・保健体育科の授業改善、家庭・地域と連携した生活習慣の改善など、学校教育活動全体を通じた計画的な取組が、課題の解決に向けて重要であると捉えています。